

滋賀県流域治水検討委員会 第3回住民会議議事録

日 時：平成20年6月1日(日) 14:00～17:00

会 場：竜王町防災センター 会議室

出席者：36名

委 員 石津文雄、大橋正光、北井香、柴田善秀、杉本良作、中村誠伺、

(敬称略) 成宮純一、齒黒恵子、松尾則長

アドバイザー 多々納裕一(京都大学防災研究所教授)

オブザーバー 市町担当者、県関係部局担当者

事務局 土木交通部技監 清水重郎、県河港課、県流域治水政策室

議 事

1. 開会
2. 現地視察について
3. ワークショップ
4. 一般傍聴者からのご意見
5. 閉 会



1. 開会

司会(事務局 中田) 滋賀県流域治水検討委員会 第3回住民会議開会に先立ちまして皆様にご連絡とお願いがございます。委員の中で中井正子委員におかれましては、所用により欠席ということになっておりますのでよろしくお願いたします。それから、本日の配付資料でございますけれども、お手元に「議事次第」、それと右肩に資料1と書いております「第2回住民会議意見まとめ」、資料2の「第2回住民会議議事要旨」、それと参考資料といたしまして、「流域治水事例集」。という4種類の資料をご用意しております。ご確認いただき、もしないようでしたら係員のほうに申し出ていただきたいと思います。それと携帯電話でございますけれども、議事の進行上、マナーモードか電源を切ってくださいませよう、よろしくお願いたします。

それでは、本会議の進行につきましては大橋座長様のほうにお願いたしますのでよろしくお願いたします。

大橋座長 失礼いたします。滋賀県の流域治水検討委員会第3回の住民会議をただいまより開催させていただきます。午前中は日野川の現地を見ていただくことになりまして、いわゆる今日までの先人たちの備えというような状態がまざまざとみせていただいたのではないかと思います。今日はこの竜王町の皆様のご協力をいただきまして、この素晴らしい会場を貸していただくこととなりました。竜王町の皆様に対して、この場ではございますが、厚く御礼申し上げるものでございます。また、日曜日の忙しいなかにも関わりませぬ町長さんがこの場にかけていただきまして、またその竜王町が日野川に対しての熱い思いを持っていただいているということが、浮かび上がるんじゃないかなと思います。せっかくでございますので、町長さんにごあいさつをいただきたいと思います。よろしくお願いたします。

竜王町長 皆さんこんにちは。今日は、それぞれ委員の皆様方お集まりいた

いて、竜王町までお越しいただいたことを、まずはもって心から歓迎を申し上げたいと思います。日頃は皆様方におかれましては、滋賀県の地域の治水問題につきまして、それぞれの立場でご検討をいただいております。本日は第3回の住民会議ということで、午前中は現場の方をまわられたというようなことで、大変ご苦労様でございます。この治水につきましては、私が申しあげるまでもなく、全て地域の住民が日頃から安全で安心して暮らせる、こういうことがまず一番の治水の願いではなからうかとこのように思っています。とりわけ、私の町は天井川が大変多くありまして、台風また梅雨時には住民の皆さん方もなかなか大雨が降ると枕を高くして寝ていられないという状況の町でございます。そしてまたこの治水だけでなく、私は、これに関連する治山が非常に大事ではなからうかと、このようにも思っております。この昨今の山の状況をみますと、本当に荒れ放題ということで、全然手が付いておられない。こういうことになりましたと、落ち葉がどんどん落ちて重なってまいりまして土の表面ができず腐葉土が面して、大雨が降ってくると、一気に雨が川へ流れてくるということで、土に染まないということで、大きな洪水災害が発生するというようなことをテレビで報道をされておりました。まさにその通りだと思っております。私もこの山林の植林をしようではないかということで、はやくから話を出しておるんですけど、予算とかなんとかの都合で行われておらないのが残念ではありますが、15～6年前にこの治山問題でヨーロッパの方に研修に寄せていただきまして、もうすでに皆様方もご承知の通りと思っておりますが、ドイツの黒い森というところ、この現場に向きました。このドイツのほうも山も荒れて水害が多く発生したということから、やはり治山を大事にしなければいけないということから、その発想で、植林をどんどんされ、山を大事にされてこられて、もうそれから年月が相当経って、本当にまさに黒い森でありました。そうということによって、森を守るということ

によって、また河川が守られているということがその時つづさに自分も感じたわけでございます。こういったことで、全てが川だけでなくやはり山も大事にし、そして川を守るということが一番大切なことであると、このように思っております。このことにつきましては、この委員の皆様方がそういう面に共鳴をしていただきまして、この治水検討委員会を立ち上げていただいたものとこのように思っております。このなかなか財政の厳しい中でございますけど、この日野川につきましても順次改修は進めてもらっておりますけれども、なかなか所期の目的が達成するまでには相当年月がかかるというようなことでございますけれども、その上にやはり地域の住民もそれに根ざした活動が大事ではなからうかなと思っておりますし、昨年竜王町は県下で一番はやくに洪水ハザードマップも取り組んでまいりました。住民の皆さん方も治水について認識も高めていただいたものと、思っております。今後におきましても委員の皆様方もさらなる研鑽を重ねていただきまして、地域住民の安全で安心な生活が営めるように、皆様方の力で一層ご指導をいただければありがたいと、思っています。これにつきましては、国県町も挙げてこの問題に取り組んでいかななくてはならないと、このように思っておりますので、委員の皆様方のご指導、ご協力をお願い申し上げますけれども、歓迎の言葉と、そしてまた今後皆様方の長らくのご活躍をお願いするごあいさつとさせていただきます。ありがとうございました。

大橋座長 町長さんありがとうございました。今もお話されましたように、町長さん、集落での運動会の催しの時間を割いてこちらにかけつけてきたということでして、ご多用やと思っておりますので、席をはずしていただけたと思いますが、今後ともご活躍いただけることをご祈念いたしまして、よろしく願いいたします。ありがとうございました。

2. 現地視察について

大橋座長 それでは、さっそくですけれど、次第に従いまして進めさせていただきたいと思います。先ほど河川整備や、日野川沿岸の水害の備えといいますか、そういうことをつづさにみていただいたんじゃないかと思いますが、若干、この会議に入る前に感想がございましたら、意見交換をさせていただきたいと思います。どなたからでもこの今回視察していただいた中で感じられたことがありますら、よろしく願いいたしたいと思います。柴田委員。

柴田委員 感想になってしまうんですけれども、あらためてひとつの流域を町を見ながら歩いたというのは初めてでして、その地域、地域によって、家を建てる時を含め、本当に水害に対する対策なり意識の違いというのをこうも感じとれるものなのかなというのを非常に思いました。それで、地域によっては昔、特にやっぱり昔から住んでいらっしゃる所に関しては、高くしたりだとか、例えば防災の道具を近くにおいていたりとか、お地蔵さんの話であるとか、そういう何か水害に対する日頃の生活からの意識や、いざとなったときの対策みたいなものがものすごくしっかりしているなと感じました。ただやはりその一方で、新しい新興住宅だとか新しくできた家というのは、そういうことを考えて建てられているのかな、というのが正直な感想です。何よりも知っていてそこに住んでいるのであれば、対策のしようもあると思うのですけれども、水害が来て初めてここは水害が来るところだと知ったのだと、やはり逃げるのも遅れますし、対策も遅れてしまいますので、そこに関する情報提供なり、建ってしまうものはしょうがないので、そこをどいてくれと言うのも難しい話とも思いますので、そこに対してどういう対策をしていくのか、また、今後も、ここは危ないというところに人を住まわさないとかしたほうが良いと感じました。河川改修もすごく感動したんですけれども、すごく大規模にされていて、これな

ら確かに安心かなとも思ってしまうのですけれども、そこで河川改修したら終わりではなくて、やはりそういった住民の意識みたいなのは、今後伝えていかなければいけないのだということを感じました。ありがとうございます。

大橋座長 ありがとうございます。その他でもご感想が……。はい、中村委員。

中村委員 私の感じとしては、今までの仕事でも関係していましたが、例えば京都の場合に、後でわかったことなんですけれども、そのときはわからなくて、というのは、白川の上流にドライブウェイができた。そのときに銀閣寺の辺りで浸水をしている。それは後で結果として資料を照合することによってわかったわけなんですけれども、それと同じで、やはり開発の許可、大規模な道路を作る場合でもそうですけれども、やはりその流出が多くなっております。ですから、そのことについて、もしああいう低湿地というのか、ああいうところはどういうことで開発許可をしたのかというのがちょっと疑問に思えます。それでやはり今後は、そういうことを、開発許可行政を少し条例を決めるなりして、厳しくしていく。確かに所有権との問題があるので非常に難しい点があるんですが、やはり新しくお住みになる人がわからないですし、わかっているのは今行政なり地域の人はわかっているわけで、その点をやはり配慮した都市計画なり開発許可なり建築確認なりをする必要があるのではないかと、というふうに思いました。恐らく、沈砂池とか、遊水池ぐらひは少しは指導してやっているのかなという感じはしますけれども、みていますと、ちょっと大雨があれば浸いてしまう。やはりその点についての行政のほうの連携なり、河川と開発指導との関係、建築と河川との関係、これを良くしていかなとあかんのかなと感想として思いました。失礼しました。

大橋座長 ありがとうございます。他に……。はい。

北井委員 私も感想ですけれども、お地蔵さんを目安にして避難のタイミングを決めていたとかですね、あと、弓削ともう一カ所通った地域で家の土台を高く積んである集落があったりとか、そういうふうな今までから経験が積み重なって決まってきているとこっていうのは、すごく細かくいっぱいいろんな地域にあるんだろうなと思うんですけれども、地域にちゃんと関わっていないと、やっぱり若い世代の人たちだとか、集落の人全員が、全員がというか理想としたら全員知っている状態だと思うので、まあ全員が、ちゃんとそれを知るといのは難しいな、きちんとできていないのかなという気がしまして、まあお年寄りやったら知っているけれども、そういう前提があるというのは結構多いなと思いました。それをどうやってほかの多くの人に知ってもらえる、一般的な情報じゃなくて、そういう地域独自のそういう取り組みだとか、そういうふうなことをもっとやっていかないと、どうやってできるのかなというのを考えていきたいと思いました。

大橋座長 ありがとうございます。その他・・・松尾さん。

松尾委員 日野川の本川に対して、支川はたくさん入っておるのにたいへんびっくりしました。また、これに関して氾濫原がそれだけうまれている地域でして、これだけの河川改修をやられていて、ちょっとびっくりいたしました。まあ特に今日見学したところは、大変地域の方が水防団について大変関心が深いような地域を回ったんじゃないかと思っております。これ以外の方が水害に対し危険を感じていらっしゃるのでしょうかということが強く思っております。特にこれから次世代にどのようにこれが引き継がれていくのかを大変興味を示しておる次第であります。以上でございます。

大橋座長 ありがとうございます。は

い。はい、杉本委員。

杉本委員 今日は見させてもらいまして、一番痛切に感じたのは、日野川の改修促進ですね。それで今日もここ竜王町に来させてもらっていますが、やはり事業費、予算ですね、もっといただけないか、がんばってほしいというのが痛切な感じですよ。

大橋座長 ありがとうございます。町長さんも喜ばれるような言葉をいただきまして。はい、齒黒さん。

齒黒委員 今日河川改修の現場見学させていただきまして、昔の生活の知恵というか、石段を積んで家を高くしたり、今でしたら業者がやられるようなことを、ひとりひとりが、知恵を出し合って、災害を防いでいるということを感じました。その大変だった天井川で、今の現在の子供たちにも伝えていくことが、大切です。昔の区長さんが、災害日記を書いておられた、ということをお聞きしました。大切に、また、若い人に公表できるものなら、してほしいと思います。それと、この改修につきまして、行政の一方的なやりかたでなく地域の方の意見とか要望を聞きながら、河川の改修にあたっておられるということを感じ、安心していきます。楽しくなるような川づくり、みんなが賑わえるような日野川の河川敷で、せっかくきれいに咲いている桜が取り除かれるというのを聞き、ちょっと残念に思いました。けれども、今植樹をされたってということで、何十年後咲くかと思えますけれども、将来にむけて楽しくお花見もできる、そんな川にしてほしいなと感じました。

大橋座長 ありがとうございます。時間的な制約があるのですが、あと二人発言されてないということで・・・はい、成宮さん。

成宮委員 今日非常に感心しましたのは、堤防の草刈り。堤防の草刈りがものすごくきれいにされておりました。水防

活動するにしても何するにしても、その、河川の状態っていいでしょうか、そこへ近づくための手段が、きちんとされているなということ、公共の場として、みんなが、みんなの財産であるというような位置づけで多分されているんだと思います。地域の皆さんも、その意識、最近はこの組織が乱れているところが多いのですが、そういう地域の中のコミュニケーションが、きちりとられているところだねいうことを思いました。まあ当然のこと、先祖のそういうご苦労があったからだろうと思うのですが、こういうことがずっと伝わっていけば、本当にこの災害の減災ということについては非常に有意義になるのではないのかなと痛切に思いました。ありがとうございました。

大橋座長 ありがとうございました。次に、最後に、石津さん、お願いします。

石津委員 僕も、その地域、地域の特性が、害を受けたところはやはり一所懸命になってやられている、そうでない新興地を見させてもらおうと、全然そういうような配慮がみえてこない。やはり先代から、守り継がれたことが次世代へスムーズに渡っていないのが今の地域の現状ではないのかということ、思うわけです。やはり、日野川とて、上流に行くとかかなり水が汚れていました。やはり雨だけじゃなくって、やはり、我々の農業の濁水が琵琶湖汚すひとつの大きな原因。その中でも住民たちが便利さを追求するための結果、やはり、知恵が昔のそのままいかされていないというところに問題があるのではないのかな、というように感じました。以上です。

大橋委員 ありがとうございました。皆さん、今日の率直な感想の中でですね、日野川を現実見ていただいた。旧村のところと、また、新しいところとの温度差があるのではないかな。また、堤防の草刈りひとつにしても、いわゆるきれいにされているところ、その伝承を次世代にしていけないといけない。ところがそれも、

今日出た中では温度差があるということ、これからどうしていったらいいか、それが大きな課題だと思えますし、特に日野川は私も先ほど申し上げていましたように、子供のころは川とともに成長していくというところが、今は近寄りがない川になっているのが現実で、これから子供たちがみんながそこで楽しみながら、川づくりができる、そういう環境づくりというのが大変であることがいわれているのではないのかなと思えますが、新しいところに対して情報をどういうふうにして伝えていくか。同じ痛みというのか、こういう経験がここ28年、34年くらいはこの辺で一番大きな被害を受けているところでございますので、それからかなりの年数がたっていて、いわゆる若い世代にその実感が伝わっていないという課題について、どうそれを伝承していくかということが課題ではないかということが、大体皆さんの中でも出てきたのではないのかと思えます。また後のところでそんなご意見をいただきながら進めさせていただきたいと思えますが、だいたい今日の午前中の視察のご意見といいますか、それについては大体この辺で打ち切らせていただくということで、よろしく願いしたいと思えます。

3. ワークショップ

大橋座長 さて本日は目の前にこうして、ワークショップ方式で議論していきたいなあと。これにつきましては、第2回のときに、今現在、何を議論されているのか分かりかねる、というような傍聴者のご意見が出ました。そういうことで、こういう樹形図にして、目的がひとつあり、みんなが個人の自助では何をしていけないといけないか、また共同のみんなとしては、共助で何をしていけないか、行政は何をしていけないか、そういう状態をきちんと整理しようということで、実はこういう形をとらせていただくことになりました。その中でこれからの道筋だとか、処方箋というものについて、みんな考えてい

ったらいいかと。委員10人がおるんですが、今日は1名欠席ですので9名がそれぞれ2グループに別れさせていただきましたが、その中で今日は傍聴席の方もお見えになっていますので、これと一緒に参画をしていただきながら、今日は取り組んでいけたらなあと。このやり方についてはこれから事務局のほうに説明をいただくと、いうことでさせていただきますので、よろしく願いいたします。それでは事務局のほうから、進め方についてご説明をいただきます。

(1)第2回の意見整理

事務局より、第2回住民会議で出された意見の整理結果について説明がありました。



(2)地域防災力向上のためのメニュー、処方箋の抽出

・事務局より、ワークショップの進め方について説明があった後、一般傍聴の方、行政職員も交えて3つのグループ

に分かれてワークショップを行いました。

・「地域防災力を向上させる方策(メニュー)」および「メニューを定着・維持・発展させるための処方箋」を個々にふせんに書き込み、グループ内で協議しながら、まとめ図を作成していきました。

(3)グループ別発表

・各グループで作成したメニューと処方箋のまとめ図について、主な意見や内容などをグループ代表より発表していただきました。

多々納アドバイザー 活発に議論していただきまして非常によかったなと思っています。僕なりに、前からでている議論の中で、特色的だなあ、大事ななあと思っていることを三つばかり申し上げます。

一つは、今日、地域の中を回っていても強調されていまして、この話の中でも言われてきたことですが、災害に対する文化、水害と言ってもいいと思いますが、水害に対応してきた文化・知恵というものについての焦点です。知恵とか文化といった今まであったものをどう活かしていくのか。それをどういうふうに現代の治水とかあるいは社会の仕組みのなかで活かすのか、ということについて皆さんいろいろなご意見をいただいた。というふうに思っています。そういった観点からもう一度見たときに、それを前からある既存の知恵とか知識というものが、全部いいのか。いいのもあれば、悪いのもあるはずですね。あるいはその中で、生きているものもあれば生きていないものもあるはずで、その中でやはり、どういうものを活かし、どういうものを少し遠ざけて進めていくのかということについての、その具体的な仕組み、そのやり方、そういったものについてのお考えというものが、いろいろ提案されているんだと思います。半鐘なんていうのは、死にかけた知恵ですね。ですけども、これを災害時の情報伝達に使ってみたらどうか、スコップの

話というのもこれと同じだと思います。これもアイデアだと思います。おそらくこういった話は、ちょっとおもしろい感じがしますね。そういったものは、試しにやってみるといった仕組みにもっていくという必要もあるかもしれませんが。目玉になるようなものを幾つかフォーカスしてもらうことが大事かなと思います。

あともう一つ、特色として見ているものは、先ほども「三方よし」のお話もございましたけれども、少し真面目に議論しないということが近畿地方の方の特徴かと、僕自身思っていました。「ストレートな物言いでもそれは面白くないやん。考えたことにならへんやん」ということだと思うんですね。「要するにこれはどうええことがあるんや」と、ふっと体の中に入ってくるような言葉で、何か表さないといけない。こういうことだと思います。その時に、僕の理解では「三方よし」という話は、「地域によし」というのは、何も災害、災害、防災、防災と言われるばかりなら、地域にとっていいとは思われない。それは普段「そんなんええやん」と。本当は地域のためになるんですけど、「まあええやん」と。ところがそれをもう一步進んで考えると、「まあおもしろいやん」と。こういう話にならならないかというふうに思うわけですね。そのための仕組みをどうするかという、また、半鐘の話になって恐縮ですが、半鐘も集まって見たら、「これ昔からあったんねん、これええやん」という話ですよ。

今の話の中でも、色々面白い話が出ていますけれども、昔の知恵を語り継ぐ、「この地区は石垣の上にこういうふうになっているんやなあ。」と見るだけでも、また今日も歩きながらいろいろと教えてもらいました。神社があるところとか、祠があるところというのは、昔（堤防の）切れたことがあるところが多いそうです。確かにそれは触ってはいけないからと。こういうことを習うだけでも違うわけですし、なんか面白い案、これは「防災といわない

防災」の話をしてみたり、前回からいくつも言われていますよね、地域の行事の時にちょっと災害のこともやってみるとか、そういうのもいいと思いますけど、何か楽しむ仕組みみたいなもの話というのが出てきているなあと思いました。

もう一つは、地域の特色としてやはりお勤め人さんが多い。これは、全国そうなんですけど、ただ、ここはどちらかというと、少し長距離ですね。大阪まで通われる方もおられる。一方には地元の企業もある。そういうところ。それから逆に言いますと、若い人も多いということですよ。で、その地域の特色をどうやって活かしていくか。こういう議論もいろいろされていた。そのためには、やはり協定など具体的なアクションがいるなあという話が、幾つか出ていました。

僕今日感じましたが、アイデアはたくさん出ているんですけども、前回も同じことを言ったと思いますけれども、最後には、これはアクションプランじゃない。アイデアをたくさん出してもらっていいんですけども、アクションプランって何かっていうと、いつまでにするかと、何からするかということ若干考えていただいて、これとこれとこれをやったら、まあとにかくやらなくちがうかと。そこをベースにすると、「こういうことをする」ということを目標にしようやないかという話にできたらいい。次回までに事務局のほうでも、あるいはこの中の委員の有志の方でも結構なんですけど、一つのたたき台みたいなものを作ってもらいたいと思います。僕らが今議論した中で、違った見方をすると、「人の話」、「情報の話」、「知恵の話」というのを、たぶん皆さん一生懸命、お話いただいたのだと思います。この中で一つやはり共通してああそうかと思ったことは、「アドバイザー」や「サポーター」という言葉で各グループ言われていたと思うんですけど、地域の方が実際に活動されるに際してですね、そこへのアドバイスとか、お手伝いとい

ったことができる人の何か中間的な仕組みが必要なのか。あるいは、行政のほうで用意していただけるのか、分かりませんが、何らかの人的なサポートというものが必要だという意見が、共通に出てきていたと思います。非常に目から鱗が落ちた思いがしました。私たちが持っている資源というのは、限られますけど、「人」「情報」「知恵」といったものとか、さっきの災害文化とか、楽しむ仕組みとか、地域の特色だとか、そういったところにフォーカスを当てていただいて、特色のある地域の防災力を作るアクションプランができるといいなと思います。その時には議論にありましたように、やはりキャッチフレーズを考えたほうがいいですね。これ、また座長さんを中心にしてまた次回までに考えていけたらいいなあと思いました。以上です。

大橋座長 大変ありがとうございます。全て今、アドバイザーの多々納先生におっしゃっていただいたんじゃないかなと思うんですが、今日は、「自助」、「共助」といった部分がばーっと出たんじゃないかなという感じがいたします。私は先ほども申し上げたんですけど、流域治水検討委員会、10名の委員がここにそろって色々議論しているんですが、いかにこれを終えてから、1年後に地域にそれを波及していく。こういう議論が地域でそれぞれ展開される。そういう状態になって、初めて情報の伝達の方法だとか、共有できるんでないかなと、先ほどから申し上げてきたんですけど、今日は3グループに分かれていただいて、それぞれの特徴あるご意見ができてきたと、思っております。次回は6月28日ですか。ということでそれまでにですね、事務局のほうで意見を整理していただくわけですけど、「公助」として「こういう具合にアドバイスしてほしいなあ。」「こういう支援をいただきたいなあ。」というようなことを中心にですね。ちょっと議論をさせていただけたら、という思いをしております。

4. 一般傍聴者からのご意見

大橋座長 それでは今日は一般傍聴の皆さんに意見を伺う時間になってきたんですが、その方もこちらのグループの中に入らせていただいているので、一般傍聴の方が少ないなかですけれども、もし、一般傍聴の方の中で、ご意見を申し上げ、こういうこと言っておきたいなあ、ということがあったら、ご意見よろしく願います。

傍聴者（佐々木） 本日の資料を拝見していて少し気になっていたことなんです。どういう方策を打つべきかという情報はたくさんあるんですけども、話している中ですごく重要だと思ったことなんですけど、何故そういうふうにしたのかという理由であったり経験であったりすると思うんです。方策として出てくる裏側の情報というのは大きくて、もとの情報が分かれば、方策というのは選択可能なんです。方策でいったら、これはできるかできないかで判断するしかないんですけども、何でそう思ったのか、何でそう思った経験があるのかということの情報がまとめられていけば、方法というのは選択することもできるし、他の方法を考えることもできるので、是非まとめる時に、理由および何故そう思ったのかという経験のところに関してまとめていただかないと、方策だけでまとめてしまうと、後でこれできるできないの議論になってしまうのではと、あまりにも一般傍聴として危惧いたしましたので、ご配慮いただければと思いました。以上です。

傍聴者（正村） いつも一般傍聴させていただいております。今日は参加させていただき意見が言えたんですけど。今日皆さん午前中日野川を視察されたと思うんですけど、先ほど、竜王町ってどんな災害が起きるのかということで、うろろと竜王町内を回ってきたんですけど、是非皆さんお時間があればなんですけれども、祖父川ってご存知でしょうか。竜王町の方もいらっしゃるんですけども、祖父川っていう川なんですけれ

ども、天井川になっていますよね。ちょうど高速を東の方から向かってきてドラゴンハットという場所があって、高速を越えて、竜王大橋があります。あの辺りが低くなっている場所で、あそこがもし決壊すれば竜王町の町の中は水が流れ込むのではないかと。竜王町の場合は丁度、日野川と祖父川が合流しますので、水が流れ込めば池になってしまうのではないかと、水が抜けないのではないかとという危惧を持ったんです。結構町中を歩くとですね、色んな危惧する点が見えてくるんです。そういう中でこういう感じのマップになりましたけれどもね、もっとD・I・Gといますが、そういう地域の地図を見て、どういう所に危険があるかということも見る事ができます。あと、こちらのテーブルの方に苦言なんですけれども、皆さんいる方を見ると行政関係の方なんで、結構みなさん詳しく、今日もわれわれのほうにオブザーバーで入っていただきました行政の方もですね、結構色んな情報を投げかけてくれたものですから、逆にあちらのほうのテーブルの方は、われわれの出でこないような話が出てくるんじゃないかと期待していたんですけれども、われわれが出てきたようなものと同じようなものに収まったものですから、もっとこういう形で、行政の方たちが出てきてくれるんだったら、本当はこんな情報を持っているんだということがあれば、もっと出していただければ、もっと面白いもののできたのではないかと思います。まだこれからも続くと思いますので、そんなふうにやっていただきたいなと思います。

事務局（中田） お帰りになった方がおられて、ご意見をいただいておりますので、私の方からご紹介申し上げます。

中国四川大地震やマンマーのサイクロン災害といった自然災害を直近の事実として、また、教訓として直視する必要がございます。一時的に生じた災害はまさに人間が止めることが出来ない現象であります、このことにより

派生する二次的被害をいかに食い止めるかが、われわれに課せられた、また、当会議でもテーマにしていることではないかと思えます。このことの認識の多少が各々の地域に被害の大小を生むことを考えた場合、当会議でまとめられたシステムを全県下に生かすよう、配慮いただくようお願いいたします。以上でございます。

大橋座長 ありがとうございます。傍聴にお見えになっている方もそれぞれ関心のある方ばかりだと思いますので、それぞれの思いがでていないんじゃないかと思えますが、今おっしゃったように、ここで出ただけでなしに、滋賀県下各地についてきちっと伝達していく、情報を開示していくというようなことも必要でないかなという思いがするわけでございます。

5. 閉会

大橋座長

定刻の5時前になりましたので、本日の議事はこの辺で終了させていただきます。次回は今日の提案をいただきました、まとめ方やまた新しい公助のあり方等について議論をさせていただきたい。こんな思いもしておりますので、本日ただこの配慮について十分な議論が行き届かなかった点もあったかなと思えますし、進め方に若干の違和感があった感じもいたしますが、それなりに各グループ一生懸命になっていただいて、こういうものは後半になってから、最後、終わりぐらいになってきてから盛り上がるもんですけれども、本当に盛り上がりいただいて大変恐縮に存じます。それでは最後になりまして、清水技監のほうから一つご挨拶をいただきます。

事務局（清水技監） 技監の清水でございます。今日は午前中現地も見ていただきました。昼からはワークショップ形式で、一步踏み込んだ議論を討論していただいたと思います。しかしながら、県民なり地域の皆さん方の自分

自身の問題として実感をしていただく対策といいますか、そういうものにもう少し近づけたらというのが課題であると受け止めておりますし、もう一つは、次回以降の議論になるかと思えますけれど、公助の部分、行政に望まれるもの、あるいは望むもの、その辺りを議論していただければ、ありがたいなと思っております。もっている情報は、先ほどもございましたように、出来るだけオープンにしていこうと思っておりますし、ちょっと行政側にたっておりますと、見えない部分がございます。それを補っていただくことが、この住民会議の大きな意味のあるところであると思っておりますので、あと何回かございますけど、是非その辺を討議・審議していただければありがたいと、こんなふうに思っております。今日は本当に長い時間ご討議等いただきまして、誠にありがとうございました。今後とも一つよろしく願い申し上げます。お礼の挨拶とさせていただきます。本当にありがとうございました。